

# 平成24年度事業報告書

平成24年4月1日から平成25年3月31日まで

特定非営利活動法人

かがやきプロジェクト

## 1 事業の成果

### ・福祉事業製品販売あっせん事業

平成23年度事業報告において、私たちは障がい者が地域で自立をすることを支援する活動として、①は地域コミュニティの場を作る支援活動、②は障がい者への理解広める支援活動、③には経済的自立を目指すための支援活動があるとしました。

その中から、私たちの事業は、特に不足している経済的自立支援事業を進めることとしました。

私たちの事業の対象者は、主に就労継続支援B型事業所を利用する障がい者で、私たちが本人から聴き取りをして得た情報では、その障がい程度に関係なく、自らの労働で得た賃金の少なさに不満をもち、収入を増やすことができないか悩んでいました。

平成23年度、岡山県就労継続支援B型事業所平均工賃月額10936円、真庭市就労継続支援B型事業所平均工賃月額10802円という数字がこの就労継続支援B型事業所を利用する障がい者の苦悩を物語っていると感じました。

真庭市は真庭発の斬新で希望ある取り組みとして動き出しているが、国や自治体、他の組織が未だ大きな成果を得られずにいる賃金アップと就労機会の拡大を賃金アップと就労機会の拡大が今まで出来ていなかったのは、①就労事業所間の連携を作り出すことが出来なかったこと、②各就労事業所が困難な調整に立ち向かう姿勢が無かったことが要因だとしました。

私たちは、この難しい取り組みにチャレンジしようと思ひ、難しいことだからこそ、相当な時間と手間暇をかけて取り組みをすすめているところです。

営業先では、様々な指導もうけることがあります。会議でも激しい討論があります。

各就労継続支援B型事業所への提案は、地道な研究と情報収集が必要です。それぞれの事業所が、少しでも能力アップできるようにスタッフ一同、連日連夜、会議を開き商品開発を行い、各事業所にどのような提案が出来るか細心の気配りをしながら企画を立て、提案して日本全国に販路を求め、日々努力を続けているところです。

## 2、平成24年度新事業導入の経緯

平成24年3月に行った新年度事業計画の協議の中で、平成24年度はまず、障がい者がつくる程度の商品からの脱却を本格的にめざすこととしました。品質も生産量も障がい者がつくるのだからこの程度だと自分たちが妥協をしない、ユーザーに思われない商品づくりです。

平成23年度各事業所の状況を把握し、自主商品の市場調査や商品開発を進める中で、①現時点でも商品力が構築されている食品加工分野の事業拡大への支援②事業所の自主商品より、独自のネットワークの中から共同で進められる事業として、ペット商品（特に愛犬食品）に注目し各事業所に提案を行いました。

この商品は、

- 1) 愛犬家が負担する食費や衣類などの経費は年々増加している商品
- 2) 障害者が関わる作業があり、下請け作業賃以上の収入を確保できる商品
- 3) 賞味期限が長く一定のペースで製造が可能な商品
- 4) 各就労系事業所の利用者が安定的に作業参加できる作業量が確保できる商品

等の事業所が抱える課題をクリアできる商品だからです。

近年、少子高齢化がすすみ、また経済的不況下において商品の買い渋り・買い控えが顕著に表れている情勢にあって、いくら良い商品を生産製造できるようになっても販路が無ければ賃金収入を得ることはできません。販路を拡大しても、生産製造が追いつかない、あるいは出来ないまま、作業の見直し・改善をしないままでも賃金アップにはなりません。障がい者の能力アップと作業所の環境改善が進まなければ、賃金アップも就労機会も拡大しません。これらのことも考慮し、私たち

は、愛犬食品の製造をすすめる取り組みを行いました。

私たちは、4月からさらに協議をすすめ、5月には市内6事業所（コスモスワーク・デイセンターまにわ・いきいき会・いこいの家・スカイハート灯・ワークスひるぜん）に商品製造依頼及び作業説明を行い、6月から各事業所の共通認識のもと中・重度障がい者が関わることのできる軽作業として取り組みを始めました。

各事業所から利用者の皆さんの作業ペースや行事等による作業量の把握を行ったうえで、生産依頼を行い負荷がかからないようにしました。

しかし、各作業所から納品されてきた商品はまるで商品製造訓練途中のようなもので、異物混入・数量間違い・納品形態の不統一状態などそのまま企業に出荷するにはあまりにもお粗末な物でした。私たちは、何度も問題点を伝えマニュアルによる基準づくりも行いましたが、完成品といえる商品には至りませんでした。

企業からのクレームは、6月から9月までの4か月間ほぼ毎日続き、商品が返品されることも多く、その都度私たちが深夜までやり直し作業を繰り返し行いましたが、8月末で、取引の打ち切り通告を受けることになりました。この後、各事業所と一緒になぜこのような結果になってしまったかについて協議を行いました。

一方、食品加工分野は、比較的障害の程度が軽い皆さんが取り組んでいる事業であり、ある程度販売実績のある商品も多いことから、新商品の企画提案内容については製造事業所との間で十分に検討を行いすすめました。

### 3、具体的成果について

この二つの事業の大きな成果として、食品分野の新商品の中に愛犬のおやつ用クッキーやパンの企画が浮上してきました。愛犬用のクッキーやパンは特別なものではなく、原材料・栄養成分や製造過程においても人間の食品と相違がないことから、パッケージや人の食品に混在しない製造日設定などの検討を行うことで、大量の発注量にも対応できる状況にあることが確認できました。

ドッグフード事業については中度、重度の障害者がいきいき作業を行っていることが挙げられます。各事業所では中度・重度障がい者には賃金を向上させるだけの作業量が確保できていないのが実情でした。この作業は、障がいの重い人たちにとっても日々働くことを意識でき、自分たちが作った商品が近くのホームセンターで販売されていることで社会的有用性を実感できるものとなりました。

また、事業所職員の皆さんの意識が変わりつつあることです。6月から9月までの4か月間の結果を受け、もうこの事業には取り組まないのかについて協議を行い、先にあげた重度の障害をもつ人たちがいきいきと働ける作業はこの作業を置いてほかにないこと。私たちからの提案を受け、障がい者の皆さんに作業の流れ等が説明されない中で職員の点検漏れによる不良品の発生が多くあったことが判明した等、商品の品質管理も障がい者の皆さんの作業と位置付けなければ働き甲斐につながらないことを確認し、可能であるならば、再度この事業に挑戦したいとの意思統一を行いました。各事業所の意向を受け私たちは10月より同業社への営業を再開し、すこしずつ信頼を得ながら1月には、6事業所に対し事業計画の提案を行いました。スカイハート灯については、自主製品づくりが多忙化しているため、参加できないと辞退表明がありましたが、他の5事業所は取り組みを開始。前回の轍を踏まないよう、作業マニュアルや品質管理の徹底に職員・障がい者の皆さんと一緒に頑張っていきます。

### 4、まとめ

以上が24年度の事業報告ですが、改めて感じること・ご理解いただきたいこととして、2年間を通して、事業はやっと緒についたものであり、事業所の環境改善と職員の皆さんの意識改革（作業手順のマニュアル化、商品の品質管理の視点等）が進まなければ、賃金アップも就労機会も拡大しないということです。

私たちは、今後もすべての障がい者の皆様や社会的弱者が幸せになり、各作業所の活動が活発になり、賃金拡大・就労機会が拡大するように、あらゆる視点から提案・アドバイスを継続して、真庭発（初）の取り組みが、大きな成果を生み出すようにチャレンジしていきたいと考えています。

・高齢者・障害者労働支援事業

真庭市より業務委託事業として真庭市役所本庁舎の環境整備を受託。真庭市内各事業所より役務提供者を募集し、障がい者の就労の場を確保しました。

2 事業の実施に関する事項

(1) 特定非営利活動に係る事業

定款の事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の 人数	受益対象者の 範囲及び 人数	支出額 (千円)
福祉事業製品 販売あっせん 事業	福祉事業所が連 携し共同受注商品 の製造を行う	平成24年 4月1日 ～平成25年 3月31日	真庭市内	7人	真庭市内の 福祉サービ ス事業所利 用者	16607
高齢者・障害者 労働支援事業	真庭市本庁舎の 環境整備事業に かかる役務提供	平成24年 4月1日 ～平成25年 3月31日	真庭市内	7人	真庭市内の 福祉サービ ス事業所利 用者	1200

(2) その他の事業

定款の事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の 人数	支出額 (千円)